

『視点』

名前:池永 百花 年齢:14歳

みんなは悪役が好きだろうか。悪役とは、その人の視点一つで決められてしまうものだと私は思っている。ヴィランや悪役だって理由があってその行動を取ろうとしているんだ、でもヒーローもそう。もし悪役がわの視点から話が伝えられていたら、ヒーローが悪役だったのではないだろうか。

私は悪役を好きになることが多い、私が本で読んだ名言の中で一つ「ヒーローは君を犠牲にして世界を救うけど、ヴィランは世界を犠牲にして君を助ける」。この言葉は私の知ってる中でもお気に入りの名言だ。ヴィランとは悪役にされているヒーローだとも思っている。アニメや漫画などのヴィランは時々バックストーリーと言ってヴィランがわの視点も少し入っていることがある。私は一度お姉と喧嘩した、私はとあるアニメキャラクターの一人の悪役が好きだった。私の姉も同じアニメを見ていたことからよくそのアニメの話と一緒にした。だが私が悪役の人で好きな人がいると話始めた時、私の姉は全力で反対してきたのだ。姉の好きなキャラが私が好きなヴィランに殺されているからだ。でも私はヴィラン側の戦った理由や、気持ちなどがわかるため納得がいかなかった。私も姉の好きなキャラの私欲やマイナスな点を言い返した。二人ともお互いの好きなキャラのことを奥底では理解しているけど、「気に食わないから」という理由で喧嘩しているのだ。結局はヒーローもヴィランも同じぐらい悪く、同じぐらい良い。

このヒーローやヴィランの話は現実でもよく起こることだ。喧嘩をしている時は一人一人の視点がある。それでもその中で見えるのは自分の視点だけなことが多いだろう。自分がどう思ってとった行動なのか、自分が相手をどう思わせたかったか、何をしたかったか、これらはよく相手の思っていることや考えていることとかみあわない。結果自分の視点からの理解を頼りに問題を解決しようとするため噛み合わず喧嘩する。たとえばあなたともう一人が花を選んでいたら。そこには二輪のはな、一つは淡いピンク、もう一つは赤色で枯れかけている。もう一人の人がピンクの花を手に取り、赤い花をあなたに渡した。あなたは「なんて自己中なやつだ」とか、「私のことが嫌いなのかな」とか思うかもしれないね。でも相手はピンクの花に毒があったことを知っていた、だから安全な赤い花をあなたに渡した。このように相手は相手でその人なりの考えで行動をとっている。

どの争いにもどの喧嘩にもそこには絶対にヒーローとヴィランがいる。だがそのヒーローもヴィランも一人一人の視点や価値観で違う。喧嘩をした時、トラブルに陥った時、私はみんなに一度相手の視点から、いろんな人の視点から物事を考えてみてほしい。簡単に聞こえるかもしれない、でも実際その場でこのことを思い出すのは大変なんじゃないかな。だからゆっくりじっくり考えてみてほしい。

文字数:1199